




軍縮教育のあり方

— アメリカでの平和教育と軍縮インターンの経験から —

ネバーアゲインキャンペーン9期生
大辻 由起

- 
- ①ネバーアゲインキャンペーンとその活動
 - ②ジュネーブでの軍縮インターンの経験
 - ③現在の軍縮教育の課題と改善点
 - ④まとめ

1. ネバーアゲインキャンペーンとは

発足：1982年

概要：**NAC**とは、**Never Again Campaign**（ネバーアゲインキャンペーン）の略で、アメリカ各地の学校や教会などをまわり、現地の人々に日本文化とヒロシマ・ナガサキの体験を伝える、草の根のボランティア活動。ほぼ2年に一度数名の日本人がアメリカ各地に派遣され、各々が教育機関でプレゼンテーションを行う

2. NACでのプレゼンテーション

- ヒロシマ・ナガサキについてのプレゼンテーション(軍縮教育)
- 日本文化についてのプレゼンテーション(異文化教育)

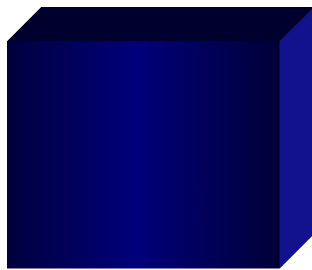




50000 °C



= 6000 °C



= 760 °C

3. NACの活動を通して

- 『ごめんなさい』と書かれた感想文
- 中国系、韓国系の子供たちの反日感情を親日感情に変える事ができる教育

4. 軍縮インターンの仕事内容とWILPF

WILPFとは？

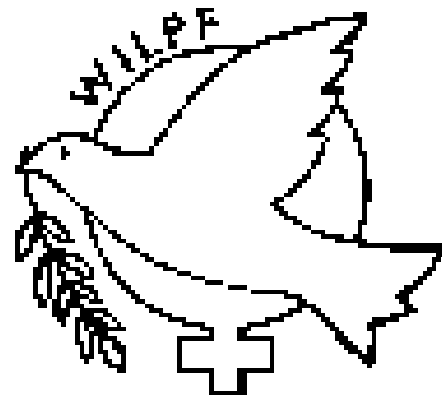
Women's International League for Peace and Freedomは1905年に発足した世界で一番古い女性団体。戦争や人権問題について世界中で取り組んでいる

軍縮インターンの主な仕事

国連軍縮会議でのモニタリング、NGO主催会議の運営、事務等々

<http://www.wilpf.int.ch/index.htm>

<http://www.reachingcriticalwill.org/>



5. インターンの目から見た国連軍縮会議

- 何年も討論が進まない構造

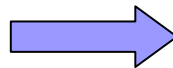
- 中国・日本・アメリカの関係

6. これからの軍縮教育に対する課題

問題点

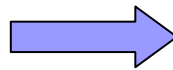
解決策

「思い」を伝えることに重点を置きすぎている



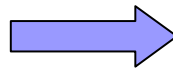
行動をともなう軍縮教育の設定

加害の歴史を学ぶ機会がない



軍縮教育を学ぶ際に加害の歴史も学び、東アジア諸国との連携をとる

国連に頼ってしまう姿勢が多い



NGO主体で法的実効力のある法律などを作る